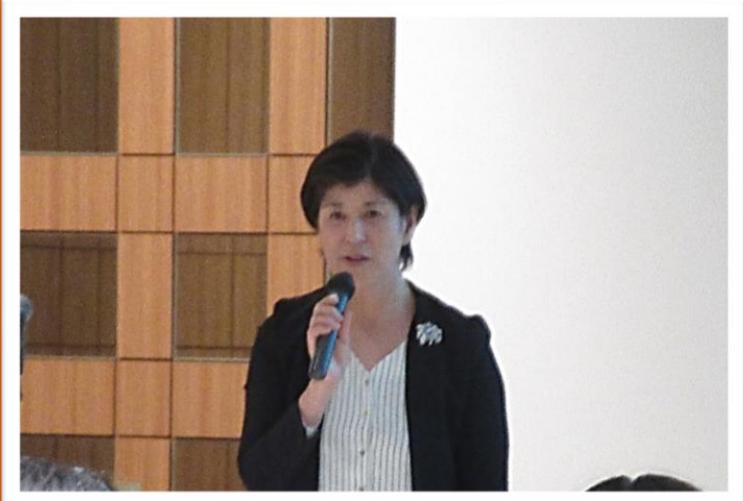


第52回 在宅ケアネット渋川 講演会レポート

[日時] 10月10日(木) PM19:00～PM20:30 [会場] プレヴェール渋川

(演題) 『専門職へ伝えたい認知症のある方への対応』 ～具体的な事例をとおして考える～

(講師) 高崎健康福祉大学 看護実践開発センター 梅原 里実 先生
専任教員/認知症看護認定看護師



職種	人数(人)
医師、歯科医師、薬剤師	20
看護師・保健師	65
介護職	43
PT/OT/ST	30
ソーシャルワーカー	16
ケアマネジャー	13
栄養士	6
事務(行政含む)	13
その他	4
合計	210



講演会の後は、秋の在宅ケアネット恒例の懇親会で多職種の親睦を深めました



人の行動には何かしら意味があるので、例えば「どうして散歩（徘徊）するのか」など寄り添って考えるということが大事とのこと。日常業務に追われているとつい忘れがちですが、行動を制限するだけでなく、こういった考えを持ちながら接するだけで少し違った対応のヒントが得られるのではと感じました。

また10月10日は転倒予防の日でもあるとか。日本転倒予防学会の会員でもある梅原先生より「ぬ・か・づけ」という標語をご紹介いただきました。

◎ぬれている ◎かいだん ◎かたづけられない

高齢者の救急搬送事故の原因の多くが転倒、転落といわれています。この標語を意識して、利用者様の事故予防に役立てましょう。

[参加者の感想 (一部抜粋)]

☆その人その人へのケアの内容がそれぞれ違う中で、やはり人としての尊重が大事。介護者も画一的ケアではなく、相手を思いやる心が一番大切な様な気がしました。

☆認知症の種類によって症状が全く違うことが良く分かった。認知の症状があっても寄り添うことで理解し合える事を知り、これから介護するうえで大切にしていきたいと思った。